

日々小論

今夏は国内外で大規模な自然災害が相次いだ。熊本地震の約1カ月前、6月24日にマグニチュード(M)7超の地震が約40秒の間隔で2回発生した南米ペネズエラでは、6千人超が死亡した。同国政府は行方不明者数を公表しておらず、人的被害の全容はいまだに見通せない。

日本と同様に「地震大国」であるペネズエラは、世界でも早くから建築物の耐震化に取り組んできた。1939年に耐震基準を設け、67年に首都カラカスを襲った大地震を教訓に基準を強化した。関連の研究や技術者の育成も盛んだったという。石油資源に支えられ、中南米有数の豊かさを誇っていた。

しかし、99年に大統領に就任した故チャベス氏と、後継のマドウロ氏による30年近い独裁体制が状況をがらりと変えた。汚職がはびこり、国際的な経済制裁の影響もあって経済が疲弊

し、公共サービスや防災対策は大幅に後退した。

今年8月、米紙ニューヨーク・タイムズが熊本での取材を踏まえ、ベネズエラと日本の災害対応を比較していた。熊本地震もM7超だが、ベネズエラより被害は格段に小さい。なぜか。耐震化の推進や防災訓練、地域社会の組織力などを理由に挙げ、次のように結んでいる。

〈日本の方が経済的に豊かであるだけでなく、民主主義の国であり、市民が行政を監視し、説明責任を求める仕組みがより整っている点が大きい。行政への信頼も比較的高い。災害時にはどれも重要な意味を持つ〉

民主主義が機能することが防災や減災に大きな役割を果たすという指摘だ。「法の支配」が軽視され権威主義が強まれば、災害に対して脆弱になるとも言い換えられる。米国民には一層重く響くだろう。

[illegible]

NIEワークシートのこたえ（2026年10月13日公開）

◆ワークシート

「防災と民主主義（社会）」

2026.9.22付 朝刊 4面 解答

- 1 ① 独裁 ② 中南米有数の豊かさ ③ 建築物
④ 耐震化 ⑤ 後退

2 民主主義が機能すること

すてっぷあっぷ

★わたしからのひとこと！（記事を読んだの感想や意見を1行で書いてみましょう。）

--

★100字シート (□にチェック)

□記事の要約

□記事に対する感想・意見

[illegible]